

ク其交換甚タ容易ナリ故ニ軌道ニ故障アレハ之レヲ除去スル間汽車ノ運行ヲ妨クルニ過キス船舶ニ在ツテハ然ラス目下我國ノ如キハ構造大小等各船各別ニシテ甲ニ配船シタルモノヲ其儘他ノ船ニ乗組マシムルノ難キコト多シ又船舶ハ天候船員ノ過失殊ニ不案内ノ航路ニ於テニ依リ坐礁スルコトアリ機關其他ニ故障ヲ生スルコトアリ其修繕ニ要スル日數ノ長短ハ素ヨリ一定スル能ハスト雖モ多キハ月餘ニ及フコトアリ又一箇年ニ一度ハ必ラス入渠シテ船底ノ掃除塗替ヲ要スルモノナリ故ニ船舶ノ運用ヲ計畫シ又軍隊ヲ配船スルニ當リテハ此等ノ注意緊要ナルモノナリ

陸軍戰時船舶輸送ハ鐵道輸送ト直接ノ連絡ヲ要スルカ故ニ鐵道ト共ニ兵站總監ノ管下ニ屬シ運輸通信長官部ヲシテ之レヲ統轄セシム運輸通信長官部ニ於テハ輸送ニ關スル諸般ノ計畫ヲ策シ船舶運行事表

及ヒ配船豫定表ヲ製シ發船地海運部ニ移シテ實行セシムルモノトスル海運部ハ其與ヘラレタル命令ノ要領ニ從ヒ之レカ實行ヲ期スヘキモノニシテ一部若シクハ小規模ノ輸送等ニ至ツテハ計畫實行ニツナカラ之レニ任スルコトアリ而シテ之レヲ設置スル位置ハ海運ノ基地トナルヘキ點及ヒ此基地ヨリ輸送ノ目標點トスヘキ戰地策源地ナリ即チ海運部ヲ設置スヘキ地ノ撰定並ニ其配備ノ程度等ハ作戰地ノ方面ト戰時百般ノ現況トニ應シ臨機規定スヘキモノニシテ豫メ之レヲ定ムルコト難シト雖トモ必スヤ左記諸項ノ全部若クハ若干部ノ資格ヲ有スル海港地ナルヲ要ス

- 一 港灣ノ防禦整備シ碇泊場ノ廣闊ニシテ且ツ安ッ安全ナルコト
- 二 野戰軍隊ノ上陸點ニ達スル航路ノ短少ニシテ海上交通便利ナルコト



- 三 軍隊軍衙ノ所在地ニ通スル鐵道又ハ道路ノ交通便利ナルコト
  - 四 石炭及ヒ清水ノ供給十分ナルコト
  - 五 廣潤ナル地積ト建築物トニ當ムコト
  - 六 海陸運搬材料ヲ得ルニ容易ナルコト
- 輸送計畫ヲナス爲メ調査準備スヘキ要素並ニ諸般ノ注意左ノ如シ

(一) 船舶ノ調査

所轄應、船主、製造年月、製造地名  
 買入代價、免狀番號、信號符字、檢  
 査ノ年月、檢査有功期限、  
 航路定限、運航港津、定繫場

是等ハ戰時船ヲ發賣スル爲メ船所  
 有主ノ船新舊ノ度、保存期限ノ長短、船所  
 原價ノ高下、塔ヘ得ヘキ航路ノ程度等ヲ  
 知ルニ供ス

用方  
 荷船用ナルカ客船用ナルカ等ヲ云フ荷船ハ客室、炊爨並ニ食餌用  
 器具、飲料水ノ貯蓄、厨ノ如キ者少ナキカ故材料貨物積載用ニ供シ  
 客船ハ荷物ノ積載少ナク乗客用ノ物件ハ備ル故人員ノ搭載ニ用  
 ニル如シ

船 質(堅牢ノ度ヲ知ルニ必要ナリ)

尺 度  
 長サハ量噸甲板ニテ計リ、量噸甲板トハ第二層ノ甲板ヲ云フ、深  
 サハ量噸甲板ヨリ船底中央内板ニ至ル迄ヲ計ル、一層ノ外甲板ヲ  
 有セサルモノニ在ツテハ船體ノ尤モ大ナル部分即チ量噸甲板ニ  
 相應スル位置ニ於テ計ル

載貨吃水  
 貨物ヲ滿載シタル船ノ水入ヲ云フ通常後部ノ吃水、前部ノ吃水ヨ  
 リ約一呎深キモノトス時トレテ此差二呎ヲ起ユルモノアリ又ハ  
 差ナキモノアリ或ハ前部却テ後部ヨリ深キモノアリ

總噸數  
 船舶ノ大小ヲ定ムヘキ第一ノ要素ナリ之レヲ計ルニ方式アリト  
 雖トモ長、幅、深サノ相乘積ナリト概言スルチ得ヘシ一噸トハ一英  
 尺立方百(百才)ヲ云フ

登簿噸數  
 總噸數ヨリ機關室、海圖室、船員ノ居室、其他直接營業ニ借用シ能ハ  
 サル部分ヲ除去セシモノニシテ其總噸數ト登簿噸數ノ比素ヨリ  
 一定ナラスト雖トモ平均約〇、六三ト見テ大差ナシ但シ帆船前船ニ  
 在ツテハ比〇、九ト見テ大差ナシ

方積噸數(荷積ノ場所(客室ヲ除ク)ノ容積ヲ云フ此一噸ハ四十才トス)



甲板數

甲板數多キハ人員馬匹ヲ多ク搭載スルニ適シ甲板數ナキハ荷積多シ

壓艙水槽

船底ノ全部若クハ重要ナル一部ヲ二重トシ以テ船底破損スルモ船ヲ安全ナラシメ兼テ水料ノ貯藏ニ供ス此貯藏水量ノ多寡ハ船船使用ノ目的ニ從テ必要ナル者ナリ

防水區劃

船體ノ一點破損スルモ全體浸水ノ害ヲ防ク爲メニ設ケルモノナリ商船ニ在ツテハ通常七乃至八個以下ニ區劃シアリ

檣數

檣數ハ船舶ノ認識ニ便ニシテ檣高ハ他船ヨリ距離ヲ計ルニ必要ナリ其檣ノ長短一定ナラサルモ通常二千噸以上ノ船ニ在ツテハ九〇乃至一〇〇呎、五百噸乃至千噸ノ船ニ在ツテハ五〇乃至七〇呎ヲ多シトス

避雷針

二三個ヲ備フルハ必要ナリ

綱具裝方、機關ノ種類、推進機ノ種類

最大汽壓

五百五十磅ノ重量ヲ一秒ニ一呎ノ高サニ揚ケル力ヲ云フ馬力ニ

馬力

買馬力ト公稱馬力トノ二様アリ甲ハ實際運轉中ノ實力ヲ云ヒ乙ハシリンドルノ徑ニ依リテ計算上ヨリ出シタル者ナリ公稱馬力ハ殆ント必要ナシ

石炭貯蓄、一晝夜ニ費ス油及脂ノ量

全速力ハ機關ノ堪ヘ得ヘキ最大速力ナリ又尋常速力一名經濟速力ハ消費石炭ト所要時間トヲ算當シ最モ經濟ニ適スル如ク定メタル速力ナリ通常全速力ノ四分ハ三トス

蒸溜水

船舶ノ多クハ海水ヨリ蒸溜水ヲ取ルノ器機ヲ備フ

貯飲水量

船舶ノ水櫃ニ貯蓄スル飲用水ヲ補フ爲メ假製水櫃ヲ備付スルヲ長トス水櫃ハ鐵或ハ亞鉛製ヲ可トスレトモ之レヲ得サル時ニハ木製水櫃ヲ以テス此木製水櫃ハ每個ノ容量五噸ヲ超ヘサルヲ買トス蒸溜機ノ備ナキ船ニ在ツテハ乗船人員一人ニ付一日一「ガロン」トシ少ナクモ二十日間ヲ支ヘ得ル丈ケノ飲用水貯藏ヲ要ス

積荷器械

此器械ノ檣ニ附ケタルデリックト稱スル装置ニ據ル、通常ノデリックハ五噸乃至三噸ノ重量ヲ揚ケルモノトス小蒸汽船、火砲ノ如キ大重量ノ物ヲ揚ケルニハ更ニ強力ノデリックヲ要ス



船舶ニ備ヘアル備舟ノ種類及其數、唧筒

舷梯(人員ノ出入ニ關係アリ其幅廣キヲ可トス

客室ノ多寡、兵馬軍需品搭載量

荷積(重量幾何噸、方積幾何噸)

乗組定員(船長、運轉手、機關手、事務掛、水夫、火夫、雜夫、船艙ニ附帶スル乗組員

副

便所ノ配置ハ乗船人百人ニ付キ一個ツ、ノ割合ヲ以テ之レヲ準備スルヲ要ス英國ノ制ニヨレハ百人ニ付三個ノ割合ナレトモ輕驗ニヨレハ我運送船ニアラテハ百人ニ付一個ノ割合トナスモ差支ヘアルコトナシ、

以上ノ事項ニ就テ各船舶ヲ調査シ其各船舶ニ應シ馬欄、寢棚等ヲ設置スヘキ位置、員數或ハ荷物積載ノ重量、小蒸汽船、舢舨等幾何ヲ載セ得ルヤ等ヲ計リ以テ其用途ヲ定メ各用務ニ配船ス

(二) 港灣ノ調査

1 平常出入スル船舶ノ大小多寡

2 港内ノ淺深海底ノ土質、岩礁ノ有無

軍艦ノ碇泊ニハ十尋(一尋ハ六呎)ヲ最大トス、海底ノ土質ハ壘泥ヲ最良トス次キハ軟泥、礫石、岩等ナリ

3 港灣ノ廣狹收容シ得ヘキ運送船ノ數、投錨地ト陸地トノ距離

港内ニ船舶ヲ繫留スルニ當リ各船ノ間隔ハ二クレーブルヲ存スルヲ要ス蓋シ船舶ノ最大長ヲ七十間トシテ錨網ハ水深ノ三倍、水深ハ十尋トシテ計算スルモノナリ一クレーブルハ百間ナリ

4 岩礁ノ景況、遠淺、斷崖、築立等乗船場ノ廣狹、便否

5 風害ニ對スル安否一年中ノ氣象及氣象ヨリ起ル威應(乗船揚陸ノ難易)

6 暴風ノ際ニ於ケル避難地ハ近傍ニ在リヤ否ヤ

7 内地トノ交通(道路ノ良否、鐵道電信ノ有無効程)



- 8 近傍ニ宿營セシメ得ヘキ軍隊ノ大小在來ノ倉庫之レヲ新築スヘキ場積乗船前集合地ノ廣狹出入路ノ便否
- 9 其地ニ於テ徵集スヘキ小蒸汽船、舢舨等ノ員數種類或ハ之レヲ求ムヘキ地方波止場、棧橋ノ有無景況之レヲ軍事ニ徵用シ得ルヤ否ヤ
- 10 船用炭水ノ在否之レヲ供給スヘキ地及其方法
- 11 船舶ノ修繕、船用品及ヒ船用食品等ヲ其地ニテ調辨スルノ便否

(三) 材料ノ調査整備

小蒸汽船 馬力大ニシテ曳船ニ適シ且ツ重大ナラスシテ運送船ニ搭載便利ナルヲ良トス從來ノ經驗ニヨルハ總噸數二千五百噸以上ノ船舶ニ在ツテハ本船固有ノデリックヲ以テ重量約十五噸ノ小蒸汽機關船體等分解スルコトナクシテ甲板上ニ搭載スルコトヲ得ルナ

舢舨、小棧橋材料、馬欄ノ棹其附屬品等ノ整備多寡

寢棚材料 一坪五八寸最大限トス病院船ニアリテハ二八寸ヲ適當トス

馬 絡〔搭載スル馬匹數ノ約四分ノ一ヲ備フルヲ要ス〕  
 懸 帶〔搭載スヘキ馬匹ノ數ト同數ヲ備フルヲ要ス〕

帆布製風取、水糟、水糟、帆布製布呂槽、船口用階梯及其雨覆、船旗、信號用書類及ヒ器具、客室用燈、船内炊爨用器具、デリック材料、各種網、海圖、其他各種船用品等ノ多寡整否

以上備附品ハ船舶徵發ノ際契約ニ因ツテハ船主ノ負擔トナルコトアレトモ急遽ノ際事ニ應シ得ンニハ軍時輸送官衙ニ於テ準備シ置クヲ良トス

(四) 船舶ノ分配

戰時若クハ時變ニ際シ政府ハ何時ニテモ徵發令ニヨリ國籍ニアル船舶ヲ召集使用スルノ權能アリト雖モ元來徵發令ハ國家全體ノ經濟上



甚タ有益ナルモノニアラス人民モ亦甚タ之レニ應スルヲ好マサル  
モノナルカ故ニ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外ハ徵發ニヨラスシテ成  
ルヘク之レヲ賃備スルコトトシ相當ノ使用料ヲ給與スルヲ得ルヲ得  
策トス

船舶ヲ撰用スルニハ先ツ船舶要目表中ヨリ戰時海運ニ適合スルノ資  
格ヲ有スル各種ノ船舶ヲ採撰シ運輸通信長官部ヨリ船主ニ命令シ時  
日ヲ期シテ海運部所在ノ港灣ニ回航シ檢定委員ノ檢査ヲ受ケシムル  
モノトス

運送船ハ船體及ヒ機關ノ現状、速力、炭水消費高、起重器、端舟、其他ノ搭卸  
裝置、船内居住配備等ノ適否程度ニヨリ等級ヲ定メ以テ賃給額ヲ定ム  
若シ又檢定委員ノ指定ニ從ヒ船主ノ自辨ヲ以テ相當ノ改築若クハ造  
作ヲナシタルモノハ其程度ニヨリ船舶等級ヲ進マシムルコトヲ得ル

モノトス戰時陸軍ニ要スル運送船ノ用途ニ從ヒ之レヲ區別セハ概テ  
左ノ如シ

1 各地交通船、通信船

各方面ニ從ヒ航路ヲ定メ人馬荷物ノ輸送多寡ヲ問ハス勉メテ定期ノ時日  
ニ各地ニ發着セシメ以テ連絡ヲ取ラシム

電信ノ連絡ナキ兩地間ノ交通ハ尤モ艱難ナルヲ要ス

作戰上陸後若干時日間ハ作戰地ト内地トノ通信機能ヲ一層敏活ナラシム  
ル爲メ特ニ若干ノ專務通信船ヲ置キ定期及ヒ臨時ノ航海ヲナサシムルヲ  
必要トス

通信船ニハ多量ノ石炭ヲ貯藏シ上陸地ニ於ケル諸般ノ需要ニ應セシムル  
トキハ極メテ便利ナリトス之レカ爲メ通信船ハ多量ノ炭水ヲ貯藏スルニ  
適スル構造ノ船舶ヲ採用セサルヘカラス

通信船ニハ信號旗並ニ發光信號燈ヲ始メトシ信號書及ヒ諸要具ヲ完備シ  
艦隊望樓、燈臺等トノ通信ニ差支ヘナカラシメ特ニ海軍將校ヲ乗組マシメ  
若干ノ信兵ヲシテ屬セシムルヲ要ス



2 病院船

軍醫以下衛生員ヲ乗込マシメ衛生材料ヲ備ヘ作戰地附近殊ニ上陸地附近ニ於テ戰地病院野戰病院兵站病院等ヲ設ケル能ハサル時機ニ在ツテ附近ノ港灣ニ碇泊シテ患者ヲ收容シ或ハ各地ニ巡回シテ患者ヲ收容治療スルヲ目的トス但シ満足ニ至レハ内地ニ歸リ患者ヲ揚陸ス  
病院船ニ採用スヘキ汽船ハ船體成ルヘク大ニシテ風浪ニ對シ極メテ安全ナルヲ要シ且ツ平常旅客専用ニ充ツルモノ、如キ客室多キ汽船ナルヲ要ス

3 患者輸送船

戰地ノ患者ヲ收集シ内地ニ運送スルヲ目的トス而シテ乗組人員材料等病院船ト異ルコトナク實際區別ナキニ至ルコトアリ

4 軍隊輸送船

作戰ノ初期及作戰中ニ在ツテハ間斷ナク軍隊ノ輸送ニ充用ス又戰爭終レハ軍隊ノ還附ニ充用ス

5 軍需品運搬船

戰地ノ景況ニ依ルハ勿論ナリト雖モ内地ヨリ輸送スヘキ糧食其他ノ軍需品ニ關多ナルモノト見做サ、ルヘカラス  
軍需品ノ運搬ニハ帆船船ヲ用ユルヲ得ルト雖モ潮流及ヒ季節ニ於ケル風ノ方向等ニ依リ著シク航海日數ニ長短アリ日數ヲ限ルヘキモノニ在ツテハ蒸汽船ヲシテ曳カシメサルヘカラス

以上ノ如ク舟ノ用途ヲ大別シ得ヘシト雖モ實際ハ彼此混合流用スヘキニ至ル例ヘハ定期交通船ニ後送患者ヲ搭載シテ病院船ヲシテ交通船ヲ兼ネシメ軍需品ヲ軍隊ト同船ニ搭載スル等ナリ

(五) 配船

輸送官衙ハ配船表及ヒ其副表等ヲ調製シ以テ各船ニ搭載スヘキ部隊、人員、馬數、軍需品、乘陸用材料等並ニ出帆時日、航路等ヲ知ラシム  
一船舶ニ搭載スヘキ人馬及物品ハ船舶ノ大小ニ從ヒ一定スル能ハス  
ト雖モ成ルヘク建制部隊ヲ分割セス之レニ屬スル諸材料ト共ニ之レ



ヲ一船舶ニ搭載シ航海中軍紀ノ維持給養ノ便利及揚陸後直チニ從事  
 スヘキ勤務ニ障礙ナカラシムルヲ要ス  
 上陸ノ際ニ使用スヘキ棧橋材料ノ如キハ其位置ニ任スヘキ部隊例ヘ  
 ハ工兵隊ト同船ナラシム  
 同種ノ品目ハ數船ニ分チテ搭載スルヲ良トス之レ難船ニ逢フモ盡ク  
 其種ノ品ヲ失フコトナカラシムル爲メナリ  
 人馬及ヒ物品ノ容積ヲ算定スルニハ概ネ左ノ表ヲ規準トスヘシ

人馬物品容積概算表

區分	尺度	備考
人ヲ容ルヘキ船室ノ高サ	上下兩甲板ノ高サ船梁迄六尺以上	二週間以内ノ航海ナル時ハ甲板ノ高サ六尺以上ノ船ニ在ツテハ客棚ヲ二段ニ設ケ室内ノ通路ハ其幅二尺以上トナシ兵卒ノ居室ニ充ツルモ妨ケナシ
馬ヲ容ルヘキ船室ノ高サ	上下兩甲板ノ高サ船梁迄七尺以上	

人馬材料搭船比積ノ概算

區分	船噸數	備考
船艙ニ通スヘキ艙口ノ幅	方一丈以上	馬欄ハ内部ノ幅二尺二寸長サ六尺ヲ要スルヲ以テ外部ノ積ヲ以テ本表ノ如ク測定ス我國ノ馬匹ニ在ツテハ高サチ六尺四寸ニ減スルモ差支ヘナシ幅三丈三尺以上ノ船ニ在ツテハ兩側ニ一列ツ、馬欄ヲ設ケ中間一丈、馬欄ト舷側トノ間ニ三丈三尺ノ間隔ヲ存スレハ尤モ可ナレトモ短日ノ航海殊ニ船艙欠乏ノ時ニ於テハ斯ノ如キ餘裕ヲ望ムヘカラス
將校一人ノ船室	縱六尺橫五尺高サ六尺	一容積ノ大ナル物品ハ四十立方尺ヲ以テ一噸ニ算ス
同 寢室	縱六尺橫二尺高サ六尺	
下士兵卒一人ノ居室	縱六尺橫二尺高サ六尺	
一馬欄ノ積	縱七尺橫三尺高サ七尺	
野砲一門(前車共)	縱一丈二尺橫五尺高サ六尺五寸	
彈藥車一輛(前車共)	右ニ同シ	
豫備品車一輛	縱一丈五尺橫五尺高サ六尺	
山砲一門	縱六尺橫三尺高サ三尺	

區分

船噸數

備考

考



兵卒一人  
 馬匹一頭  
 野砲車輛一輛  
 山砲一門  
 騎兵一中隊  
 砲兵一中隊

一、二分一乃至一、四分三  
 四人ニ當ル  
 六人ニ當ル  
 一人ニ當ル  
 七百人ニ當ル  
 七百人ニ當ル

一師團ヲ搭載スルニハ大概ノ標準十二  
 万噸ト見積レハ可ナラン  
 英國ハ四週間ノ糧食彈藥ヲ備ヘタル歩  
 兵一大隊ニ總噸數四千噸ト概算セリ之  
 レヲ一人ニ計算セハ四噸半ノ比ナリ又  
 騎兵一中隊ハ四十噸ト算シ馬一頭ニ付  
 キ十七噸ノ比トセリ  
 若シ短距離ノ航海ナル時ハ一人ニ一噸  
 半、馬一頭ニ五噸ヲ算スト云フ(糧食共  
 ニ合算)  
 魯國ノ義勇艦隊ハ通常八千噸ナリ是レ  
 二大隊ヲ載スルニ便ナル爲メナラン

軍隊ヲ配船スルニ當リ船舶噸數ト人馬材料ノ多寡トノ關係ハ左ノ法  
 ニ由レハ船舶ニ搭載スヘキ人馬數ノ概略ヲ單簡ニ知ルヲ得ヘシ  
 $人員 \times (1.7 \text{ 乃至 } 2.5) + 馬數 \times (6 \text{ 乃至 } 7) = 船ノ總噸數 \dots \dots \dots 餘額ヲキ艦隊$   
 $人員 \times (2.5 \text{ 乃至 } 3.) + 馬數 \times (9 \text{ 乃至 } 10) = 船ノ總噸數 \dots \dots \dots 稍餘額アル計算$   
 上式ハ素ヨリ概數ニシテ乘船スル人馬數ハ必シモ總噸數ト比例セス

船舷ノ構造ニヨリ同噸數ノ船舶ト雖モ乘船シ得ル人馬數ニ差異アル  
 モノアリ或ハ人員ノ搭載ニハ適當ナルモ馬數ハ少數ナラサルヲ得サ  
 ルモノアリ或ハ之レニ反スルモノナリ  
 軍隊軍需用運送船ハ軍隊ノ大輸送ニ當リテハ何種ノ運送船ヲ問ハス  
 軍隊ノ人馬材料ヲ満載セシムヘキコト勿論ナリト雖モ補充用ノ軍需  
 糧秣若クハ材料等ヲ輸送スルニ當リテハ其船種ニ應シ適當ノ配船ヲ  
 ナスニアラサレハ管ニ搭載揚陸ニ關スル不便ヲ來タスノミナラス船  
 舶ノ運行上非常ノ溢滯ヲ來タスヘキハ言ヲ俟タス而シテ其人員馬匹  
 ヲ搭載スルトキト糧秣材料等ヲ搭載スルトキトハ船内ノ配備全ク其  
 趣ヲ異ニスルカ爲メ其都度馬欄客棚等ノ新設或ハ解除ヲ要シ時日ト  
 手數トヲ徒費スルヲ免レサルヘシ又糧食品ノ種類ニヨリテハ甚ダシ  
 キ遺臭ヲ船内ニ留ムル爲メ載貨揚陸ノ後直チニ人員ヲ乗船セシムル



コト能ハサル等ノコトアリ要スルニ職貨ノ種類ト使用ノ目的トニ應  
 シテ運送船ヲ撰定配使スヘキモノニシテ是等ノコトタル一ニ當事者  
 ノ經驗ト才能トニ依ルヘキモノニシテ豫メ一定ノ標準ヲ確示スルコ  
 ト能ハスト雖モ從來ノ經驗ニ基キ左ニ其概略ヲ示ス

汽船種類	軍	糧	材
旅客・船	高等司令部其他急行ヲ要スル部隊	酒、煙草、寄贈品嗜好品	被服、衛生材料、至急ヲ要スル材料
旅客及貨物船	歩兵、工兵 徒歩 部隊	米、麥、乾糧品	車輛、砲工兵材料 彈藥類
貨物船	砲兵、騎兵、輜重部隊、諸縦列及馬匹多キ部隊	罐詰、樽物類、其他溫糧品	建築材料、鐵道材料、石炭、水

溫糧品ノ内樽詰ニセシ漬物、味噌、醬油類及ヒ薦包ニセシ鹽魚、干魚等ノ類ハ載貨揚陸後ト雖モ永ク臭氣ヲ船内ニ留ムルコト甚シキモノナル

ヲ以テ濫リニ諸船ニ搭載セス成ルヘク毎回同一ノ船ヲシテ之ヲ搭載セシムル如ク配船スルヲ可トス  
 馬匹ヲ搭載シタル艙内ニハ揚陸後若干日間人員ヲ配乗セシメサルヲ要ス之レ馬匹遺臭ノ爲メ衛生ヲ害スレハナリ

(六) 雜件注意

船舶ノ速力行程 ハ一時間ニ十哩即チ一晝夜ニ二百四十哩ト概算セハ可ナリ

搭載速度ハ 馬匹ハ一艙口ニ於テ一時間ニ三十頭ヲ乘船セシメ得  
 荷物ハ一日十萬才ヲ搭載スルコト難カラス  
 舩ハ地方ニ從ヒ一様ナラサルヘシト雖モ通常左ニ記スルモノハ平穩ナル天候ニ於テ武裝セル兵員ナレハ四十乃至五十人、人夫ノ如キハ



五十乃至七十人馬ハ四頭乃至六頭貨物ハ三百乃至四百貫ヲ載スルニ足ルヘシ

チキ

四十石乃至百石積

長サ三十尺乃至五十尺

イサバ

四十石乃至百石積

長サ三十五尺乃至五十尺

ヤツコ

百五十石積

長サ五十尺

ウワニ

四十石乃至八十石

長サ四十尺乃至五十尺

馬、欄、數之レヲ許セハ馬百頭毎ニ五個乃至七個ノ豫備馬欄ヲ設ケ以テ掃除ノ便ニ供スルヲ可トス又別ニ百頭毎ニ三乃至四ノ比例ヲ以テ寛廣ナル馬房ヲ設置シ病馬ノ用ニ供スヘシ  
糧秣ノ大輸送ニ當リテ其搭載量ヲ増ス爲メ船内ノ馬欄及ヒ客棚ヲ解除スルコトアリト雖モ中甲板以上ノ一部ニ設置シタル馬欄等ニシテ之レヲ解除スルモ實際幾何ノ積載量ニモ關係セサルモノハ成ルヘク其

儘ニ存シ置クヲ要ス若シ之レヲ解除シタル時ハ船内餘積ノ許ス限リハ成ルヘク其材料ヲ船内ニ收藏シ置クヲ可トス之レ運送船ノ航海先ニ於テ載貨揚陸ノ後直チニ其地ニ於テ軍隊ヲ搭載スルノ必要ヲ生スルコト屢アレハナリ  
庖、厨、ノ、配、備、ハ、其、總、噸、數、ノ、三、噸、毎、ニ、一、人、ツ、ノ、割、合、ニ、テ、人、員、ヲ、搭、載、ス、ル、コ、ト、ヲ、標、準、ト、シ、之、レ、カ、給、養、ヲ、ナ、ス、ニ、充、分、ナ、ル、準、備、ヲ、要、ス、  
搭、船、場、ハ、成、ル、ヘ、ク、數、所、ヨ、リ、搭、船、シ、得、ヘ、キ、地、ヲ、擇、ム、ヘ、シ、瀕、岸、廣、濶、ナ、ル、地、ニ、在、ツ、テ、ハ、各、船、舶、ノ、爲、メ、各、自、ノ、搭、船、場、ヲ、定、メ、各、場、ノ、間、隔、ハ、少、ク、モ、二、百、米、突、ヲ、要、シ、若、シ、一、ノ、船、舶、ニ、數、兵、種、混、合、シ、テ、搭、載、ス、ヘ、キ、ト、キ、ハ、各、兵、種、ノ、間、ニ、少、ク、モ、五、十、米、突、ヲ、隔、ツ、ヘ、シ、  
凡、テ、搭、船、ノ、順、序、ハ、最、モ、先、キ、ニ、揚、陸、セ、シ、メ、ン、ト、ス、ル、モ、ノ、ヲ、最、後、ニ、搭、載、ス、ル、ヲ、法、ト、ス、



搭、船時刻ハ諸般ノ狀況ニ因ルヘキモノナリト雖モ成ルヘク滿潮ノ時ヲ可トス

○噸數ノ種類ニ付キ參考

世上噸ト稱スル者ニ種々ノ別アリ今之レヲ左ニ掲ク

容積ニ關スル噸數ハ才ヲ以テ單位トス即チ一呎立方ヲ一才トス

荷積噸ト稱スルモノ、一噸ハ 四十才

船舶等ニ於テ總噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

登簿噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

方積噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 四十才

鐵道ノ容積噸ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

石炭ノ噸數ハ

重量

軍艦ノ噸數ハ

排水重量

重量ニ關スル噸數ハ佛、英、兩國其單位ヲ異ニス即チ左ノ如シ

佛國ノ一噸、一〇〇〇吉瓦 二六六貫六六六

英國ノ一噸ハ佛ノ一〇一六吉瓦ニ相當ス、二七〇貫九四

注意重量噸數ハ尋常物ニ於テ方積噸數ノ四分ノ三ト概算スルヲ得

其三 作戰計畫

作戰計畫ハ或ル一ツノ決心ヲ定メ此決心ヲ實行スル爲メニ取ルヘキ一般ノ方針及ヒ施設ノ計策ニシテ毎日毎時變化スル所ノ情況ニヨリテ翌日若クハ或ル時機ノ爲メニ軍隊ノ運動ヲ畫策スル情況判斷トハ



自ラ大小ノ區別アルモノナリ而シテ作戰計畫ハ戰役ノ初メヨリ終局ニ至ル迄一定不變ナルモノニアラス非常ノ變狀ヲ偶發スルコトアルニ當ツテハ止ムヲ得ス一時計畫ヲ變セサルヲ得スト雖モ凡ソ敵狀ニ從ヒ略ホ實行シ得ヘキ程度ヲ判斷シ此程度マテ計畫ヲナシ其以上ハ一般ノ方針ニ基テ適宜ニ敵狀、任務、地形ヲ斟酌シテ作戰スルモノトス殊ニ敵ニ近クニ從ヒ情況ハ時々刻々變化スルヲ以テ既ニ此場合ニ至ツテハ到底一定ノ計畫ヲ履行スル能ハス故ニ作戰計畫ニ於テ細部ノ事迄豫定シ置クヘキモノニアラス多クハ徒勞ニ屬スル者ナリ

作戰計畫ヲ記述スルニ當ツテ固ヨリ一定不變ノ法式ナルモノナシ要スルニ其計畫單簡明瞭ニ現示セラル、ヲ主トス通常作戰計畫トシテ記スルハ左ノ項目ナリ

一 作戰計畫ノ方針

二 行軍計畫若クハ集中計畫

三 宿營計畫(多クハ集中ニ當リ必要ナルモノナリ)

四 上陸軍ナレバ上陸順序及ヒ上陸後ノ處置

右ノ外學習上ニ於テハ作戰地一般ノ地形ヲ論シ且ツ敵狀、任務等ニ關スル判斷ニ基キ作戰計畫方針ノ理由ヲ論スルヲ要ス

乃チ作戰計畫ヲ立案スル爲メニ先ツ大方針ヲ決定セサルヘカラス此ノ方針ニ基キ諸種ノ計畫定マルナリ故ニ此大方針ヲ定ムル爲メニハ情況判斷、地形判斷等種々研究ヲ要スルナリ

其四 集中計畫

集中計畫ハ各地方ニ在ル軍隊ヲ或ル目的地ニ集合スル爲メノ計畫ニシテ其尤モ主トスル所ハ迅速確實ニ集合セシムルコトヲ勉メサルヘ



カラス之レカ爲メニハ作戰上ノ願慮ハ勿論行軍路、鐵道、船舶ノ便否、沿道給養ノ如何等苟モ軍ノ生存行動ニ關スルモノハ微細ニ研究シ之レカ畫策ヲナサ、ルヘカラス

(一) 集中豫定概略表

此表ハ徒步行軍或ハ船舶鐵道等ノ輸送ニ由ルノ如何ニ關セス各兵團ハ如何ナル經路ヲ取り何日マテニ何レノ點ニ集中スルヤヲ一目瞭然タラシムルニ供ス

(二) 鐵道(船舶)輸送計畫表

此表ハ鐵道(船舶)ニ由テ輸送セラルヘキ兵團ノ輸送方法計畫ヲ表示スルモノナリ其計畫要領ハ前陳其一、其二ノ如シ

(三) 行軍宿泊計畫表

此表ハ徒步行軍部隊ノ爲メニ日々ノ宿營地ヲ指示スル者ニシテ此計

畫ヲナスニハ成ルヘク同所ニ毎日逐次各部隊カ到着宿營セサル如クセサルヘカラス是レ集中行軍ニ當リテハ多クハ宿舍給養ノ便ニ據ルヲ要スルヲ以テ同地ニ連續軍隊カ宿營スルトキハ其地ノ供給力ヲ堪ヘ得サラシムル恐レアリ故ニ成ルヘク供給ヲ平等ニ各地ニ仰ク爲メ宿營地ヲ平等一般ニ配布スル如ク計畫セサルヘカラス  
又取ルヘキ道路ハ兵種ニ由テ願慮セサルヘカラス假令ハ歩兵ハ多少道路粗惡ナルモ距離ナルヲ主トシ騎兵ハ多少迂路ナルモ馬蹄ヲ損セサル爲メ柔軟ナル路盤ノ道路ヲ採用シ野砲兵ハ砲車通過ニ支障ナキ良路ヲ取ラシムル如シ宿營ノ廣狹ニ關シテハ成ルヘク給養ノ便ヲ主トスルヲ可トス

(四) 集中地宿營計畫表

目的地ニ集中シタル數多ノ部隊ヲ宿營セシムル爲メニハ各部隊ノ集



中地ニ到着スル順次ト作戰運動ヲ發起スルニ當リ使用ノ順序及ヒ便宜トヲ顧慮シ且ツ命令ノ連繫指揮監視ノ統一ナル如ク宿營地ヲ撰定セサルヘカラス此集中地ニ於ケル宿營ハ數多ノ兵力集合スルコトナレハ自然狹舍營ナルハ免レサル所ナリ

此計畫ハ或ハ略圖ヲ以テ示スヲ便宜トスルコトアリ假令一表ニ製スルモ各部隊ノ爲メニハ其宿營區域ヲ判然タラシムル爲メ略圖ヲ製シテ付與スルヲ可トス

#### (五) 給養計畫表

此表ハ集中途次及ヒ集中地ニ於ケル給養ノ方法ヲ規定スルモノニシテ集中地ハ大軍ナルトキハ到底該地ノ供給力ノミヲ以テ軍隊ヲ給養スル能ハス殊ニ永ク滞在スル時ニ於テ然リ此時ハ倉庫ヲ設置シ或ハ又集中途次ト雖モ通過ノ地方寒村僻地ナルトキハ宿舍給養ノ便ニ依

頼スル能ハス故ニ以前ヨリ地方吏ニ命シ各宿營地ニ糧秣ヲ準備セシムル等ノ處置ヲナサ、ルヘカラス乃チ此給養計畫ヲ以テ地方ノ準備、倉庫ノ設置、必要ナレハ倉庫縦列ノ編成、徵發方法地方等ヲ規定シ以テ何日何隊ハ如何ナル給養ニ據ルト云フコトヲ明示スルナリ

右ニ説ク外道路橋梁ノ改築集中地ニ於ケル諸設備、兵器被服材料ノ補給並ニ等諸種ノ計畫準備ヲ要シ苟モ集中ナルモノハ作戰ノ大命脉ノ關スル所ナレハ注意周到遺算ナキヲ要ス

情況範例ヲ以テ實際ニ於ケル如ク精説スルハ下卷ニ於テセントス蓋シ其計畫タルヤ全ク時ノ情況ニ從テ種々變化スルモノナレハ漠然諸種ノ場合ヲ想像シテ説述スルヨリハ一定ノ想定ニ基キ經過ヲ逐テ實況ノ現出スル如ク研究スルヲ可トスルモノト意思スレハナリ



基本戰術摘要解義上卷 大尾

明治三十二年九月十二日印刷  
同 九月十六日發行  
同 十二月二十五日再版  
同 三十三年四月八日三版

(正價自第一編二冊金八十錢)

著者 雲外居士

東京市京橋區五郎兵衛町二十一番地

發行兼印刷者 小林又七

陸軍省內

印刷所 小林出張所

東京市麴町區隼町二十一番地

發賣所 小林又七支店

(電話番町百九十一番)

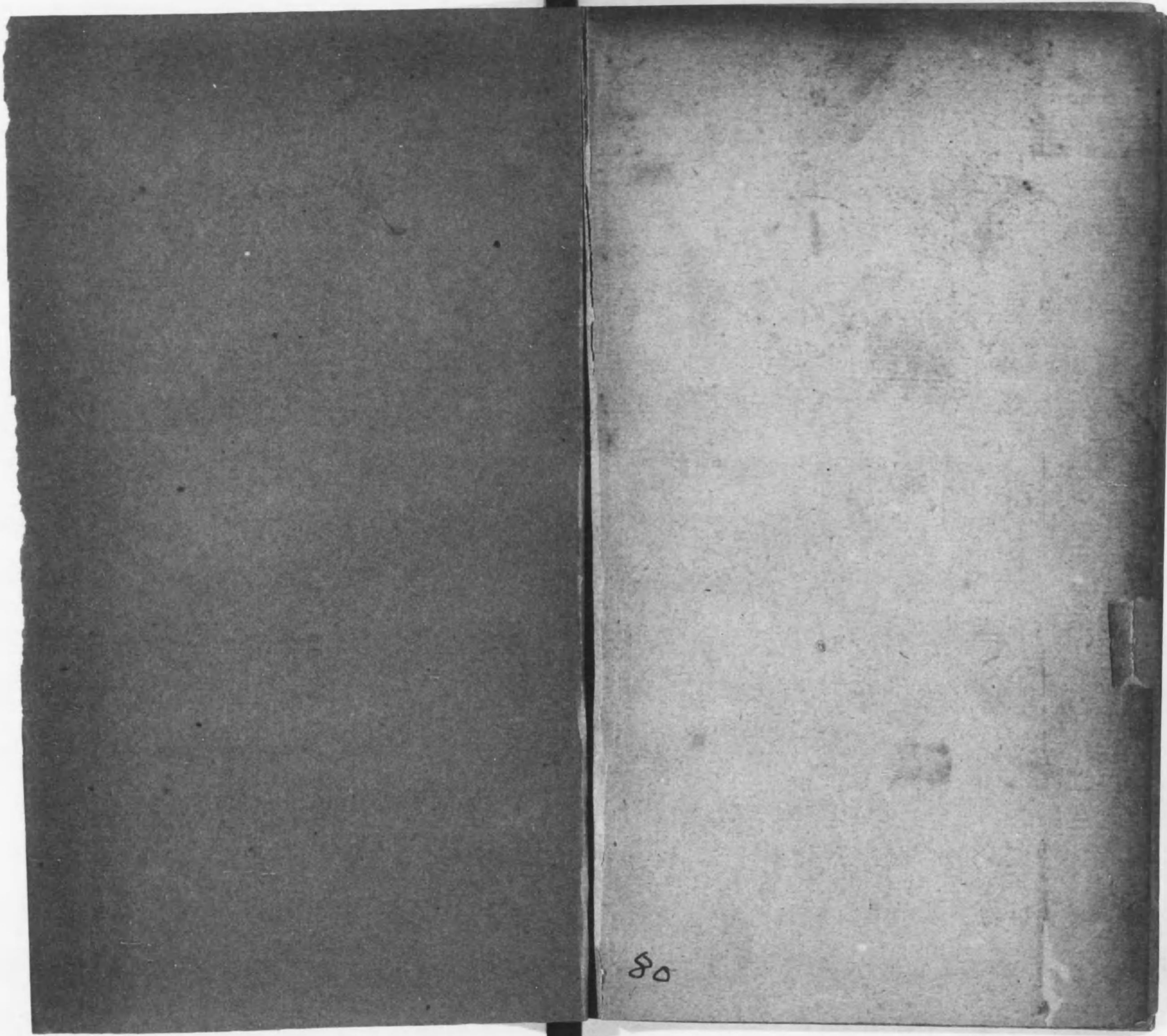
仙臺市南光院町四番地

同 小林又七出張店



85
3
55





80



85
3
352



終